

平成 31 年 3 月 27 日

【議事録】第 8 回技術委員会（要旨）

開催日時：2019 年 3 月 27 日（水） 10：00～12：00

開催場所：IRID 本部第 1 会議室

出席者：

技術委員：岡本委員長、浅間委員、瀧口委員、朽山委員、渡邊委員

技術アドバイザー：鈴木アドバイザー

オブザーバ：桑原執行役員（NDF）、戸島課長（東京電力 HD）

IRID：石橋理事長、新井副理事長、川村専務、山本理事、高守開発計画部長、
清浦研究管理部長、奥住開発計画部部長、川村研究管理部部长
原田／鶴原（記）

議事概要：

1. 前回議事録が確認された。
 2. 平成 30 年度の活動状況として、資料に基づき、IRID 設計レビュー（IDR）の活動状況（デブリ取り出し工法・システムの高度化、固体廃棄物の処理処分）ならびに、ナレッジマネジメントシステム構築の検討について説明、討議がなされ、下記のコメントをいただいた。
- 設計プロセスフローは分かりやすく良くできていると思うが、福島の新炉は、通常炉の新炉と違い、設計のプロセスフローと現場での情報取得が平行に走っていて、その間でインタラクションがあるという考え方だと思う。現場で得られた情報に基づいて、工法を見直す、追加するといった、設計プロセスフローにある各設計が変わってくるがあるので、そこを表現した方が良く思う。
 - 現場情報に関しては、これまで「炉内状況把握プロジェクト」が頭になってまとめてきたが、その公募事業が終わり、東電が引き継いでいくことになっているはず。必要であれば、東電や JAEA とともに相談しながら、各号機の新炉の現状の状況把握、評価の進め方を考えてほしい。
 - 新炉の処理や処分の要件案の検討の進め方については、たとえば、NDF に主導してもらい、東京電力 HD にも入ってもらい等よく相談して進めること。
 - ナレッジマネジメントシステム構築は、大変素晴らしい取り組みだと思う。安全の考え方やスループットの考え方、ディジタライゼーションのプロセス等が、5 年後、10 年後に参照できるようにしっかり進めてほしい。うまくいかなかった事例も参照できると良い。また、人材育成にも有効に使えるように考えてほしい。
 - NDF のディジタライゼーションや、東京電力のエンジニアリングで IRID のアクティビティを参考にされていることは分かったが、今後も現場のエンジニアリングをしていく際には

うまくリンクしてくれれば良いと思う。まだまだ課題が山積しているので、IRIDのアクティビティに期待するところは大である。

以 上